

5 適切な手法での生物生息環境の改善等による生物多様性の維持増進

兵庫：丸山湿原、松尾湿原の整備事業と希少動植物の回復

北摂地域には自然湿原が点在しており、ヒメタイコウチなどの遺存固有種を含む、湿原に依存した貴重な動植物が生息・生育している。このような湿原は小面積のものが多く、比較的平坦な場所にも見られるため、開発等により消失してしまったものも多い。

宝塚市の丸山湿原は県下最大級の自然湿原であり、大規模な保全・再生のための整備が計画されている。行政と地元の連携（西谷地区湿原群保全活用研究会）において、維持管理の継続と湿原の活用方策が検討されている。次のような活動が実施されている。

- ・ 里山林整備事業として周囲の森林を整備。遊歩道の敷設など
- ・ 西谷地区の住民、NPO による調査と監視

同市の松尾湿原は市の天然記念物に指定されているが、放置されて荒廃が進んでいた。きわめて小面積の湿原ながら、市の環境学習拠点施設（宝塚少年自然の家）の敷地内に位置し、自然湿原の代表として注目される。少年自然の家及び宝塚自然保護協会によって、重機を用いた土砂の除去、繁茂しすぎた樹木の伐採などが実施され、希少植物が増加傾向を示している。



森林整備後



遊歩道